

PRAEVIDENTIA DAILY (1月21日)

昨日までの世界：ドル/円は復活したか？

昨日は、原油安にも拘らず米株高を受けてドル/円が 119 円手前へ上昇したほか、NZ ドルの下落が大きかったのが特徴的だった。

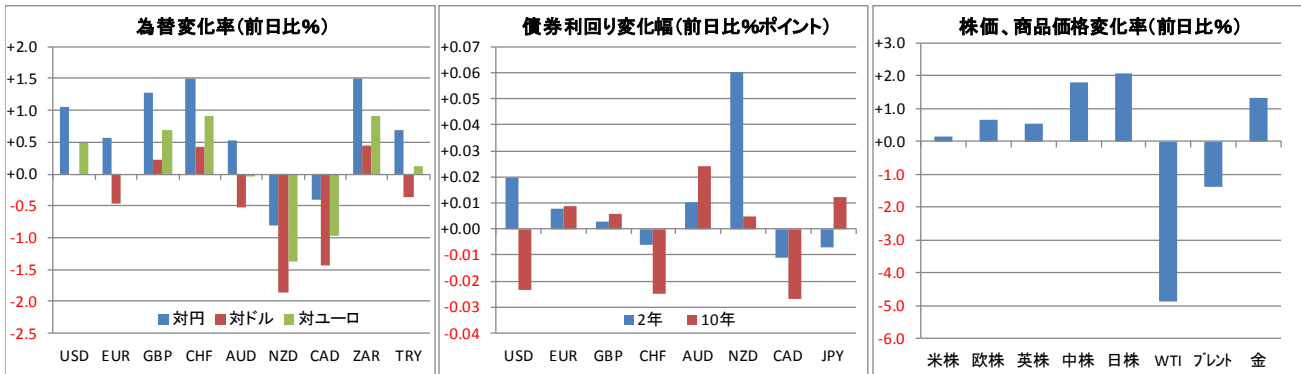
ドル/円相場は、中国 4Q GDP が前年比 7.3%と市場予想 (+7.2%) を上回り、前期と同ペースの成長を維持したほか、鉱工業生産 (前年比+7.9%)、小売売上高 (同+11.9%) といずれも市場予想及び前月を上回り、一般的に中国の景気減速懸念が後退し、中国株価も上昇したことから、本邦株高にも繋がり、ドル/円の J 118 円台乗せへの押上げ要因となった。また、本日の日銀決定会合を控えて追加緩和期待 (超過準備への付利金利引下げなど) の思惑が高まったことも円売りに繋がったとみられる。NY 時間入りにかけては、原油安にも拘らず、米株価が下落せず、米 2 年債利回りが持ち直したこともあって、ドル/円は一時 118.87 円へ続伸した。

豪ドル、NZ ドルは、中国経済指標の市場予想比上振れや中国株価の反発を受けて強含む局面もあったが極めて限定的に留まり、対米ドルで軟調な展開が続いた。特に NZ ドルは、世界乳製品取引 (GDT) オークション価格の続伸 (前回比+1.0%) にも拘らず下落基調が続き、そして本日早朝発表の NZ4QCPI が前年比+0.8%と市場予想 (+0.8%) を若干下回り、RBNZ のインフレ目標下限 (+1.0%) を更に下回ったことから、とどめを刺された。結局 NZ ドル/米ドルは 0.77 ドル台後半から、本日早朝にかけて 0.7620 ドルへ大きく下落した。

その他、カナダドルも原油安を受けて対米ドルで下落が大きく、米ドル/カナダドル相場は 1.19 ドル台半ばから 1.21 ドル台乗せへ大幅に上昇 (カナダドル下落) した。

ユーロ/ドルも対米ドルでの下落基調が続いた。ECB 量的緩和期待が背景にあり、ドイツ ZEW 期待指数の予想比上振れ (48.4) でもそうした期待は払しょくされなかった。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：日銀は真面目に今年度2%達成を目指すか

きょうの注目通貨：USD/JPY↑、GBP↑、CAD↓

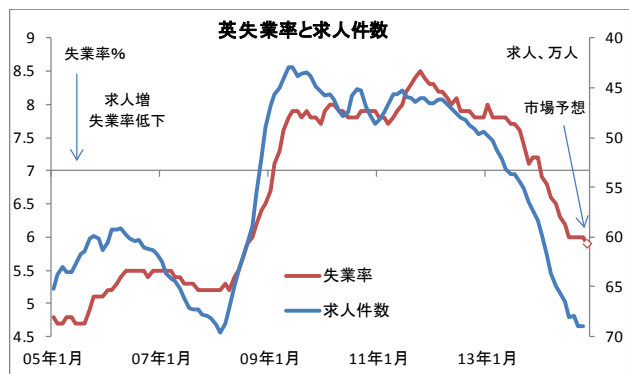
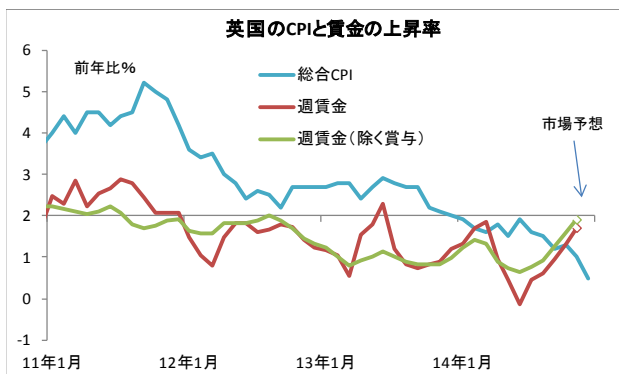
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
日銀金融政策決定	未定			CPI 予想下方修正も
黒田日銀総裁定例記者会見	15:30			
南ア 12月総合CPI 前年比	17:00	+5.8%	+5.5%	
英 BoE 議事要旨	18:30	7対2	7対2	利上げ2票
英 11月失業率	18:30	6.0%	5.9%	
同週平均賃金・総合・3か月対比		+1.4%	+1.7%	
同除くボーナス		+1.6%	+1.9%	
米 12月住宅着工件数	22:30	103万件	104万件	
同建設許可件数		104万件	106万件	
カナダ中銀金融政策決定	0:00	1.00%	1.00%	
Powell・FRB 理事発言	0:00			中立、常に投票権あり
Obama 大統領一般教書演説				
<22日>				
ブラジル中銀金融政策決定	6:00	11.75%	12.25%	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円は日銀決定会合が注目だ。今回は四半期毎の経済見直し見直しが行われ、事前報道ではインフレ予想を下方修正（15年度CPI予想<消費増税の影響を除く>を+1.7%から1%台前半から半ばへ下方修正との報道）が行われる可能性が高く、その場合には2015年度中の2%インフレ目標達成が困難になることから、追加緩和期待が一部にある状況だ。記者会見で総裁が今後の追加緩和の可能性を示唆する場合には、119円乗せへの強含みもありそうだ。また昨日は超過準備に対する付利金利の引下げ期待が高まったことから、これが実際に決定されるかも注目となる。他方、日銀は原油安が景気にとってポジティブとの見方をしており、先週の支店長会議でも確認され、かつ今回の予測見直しで成長率が小幅上昇修正されたり景気に関して慎重論が後退すれば、逆に追加緩和期待が後退して円高圧力となるリスクもある。

英国では失業率および週平均賃金が注目される。ポンドは5月英総選挙に向けた政治的不透明感やユーロ安の煽りを受けて、利上げ開始期待が大きく後退する中で軟調が続いており、なかなか好材料に反応しない状況が続いている。英米金利差をみると更なるポンド安が示唆されているが、英景気は好調が続いておりこれまでの英金利低下やポンド安は行き過ぎだ。こうした中、BoEも注視している週平均賃金の更なる上昇や失業率の低下再開は、ポンド買戻し材料となる可能性があり、注目だ。但し、BoE議事要旨ではまだ利上げ派が2票から増える可能性は低く、材料となりにくいとみている。

カナダドルは産油国であることから、原油安の悪影響が成長率とインフレ率の両方に出てくる可能性が高く、対米ドルを中心に下落が続いている。今回のカナダ中銀の金融政策理事会でも、利下げの可能性は低いが成長率・インフレ率見通しの下方修正の可能性が高く、利上げ開始時期期待が更に遅れるようだと、カナダドルの続落圧力となりそうだ。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641